

## ワークショップによる小規模GPセンターの衛生管理指導

中丹家畜保健衛生所

山内幸 森一憲 矢野小夜子

【はじめに】管内の一養鶏組合では、地域ブランド卵の生産から販売まで3戸共同の家族経営で行っている。地域に安心・安全な卵を提供したいという意向から、ワークショップを活用し、GPセンターの衛生管理について指導を行った。【取組内容】作業工程を確認し、機材・環境等の細菌検査を実施後、計2回のワークショップ形式の勉強会を実施した。自発的な取組を促すため、1回目の勉強会で検査結果から問題点と改善案を考えてもらった。2回目には改善案の具体的な実施方法を話し合い、手指の消毒 卵を拭くタオルの消毒 専用着の着用 専用靴の着用 記録の5つを決定した。【成果】作業者全員が参加し率直に意見交換したことで、アルコールによる手指消毒、タオルの塩素消毒、専用のエプロン・靴・帽子の着用が実施されるようになった。さらに、 から の実施方法や各担当者名を全員が見える場所に明示し、作業前に確認するようになった。1か月後に実施した検査では細菌数の減少を認めた。【まとめ】ワークショップを活用した指導により、農家自身が問題点や改善策を考えたことで、基本的な衛生対策の実施に結びついた。記録の実施が課題として残っているが、引き続きこの手法を活用した指導を行うとともに、鶏舎での飼養衛生管理にも同様の方法で指導を行うこととしている。